新潟県知事賞

感謝の心を持つ理由

新潟大学教育学部附属長岡中学校
三年　高野　美亜

「感謝らいやぁ。」

祖母が、亡くなる当日に私の父に向かって話した最後の言葉だ。首にできたリンパ腫で気道が塞がり、お腹の筋肉もなく体力の限界だったせいか、もう声を出すことが難しかった祖母。そんな状態の中、最後の力を振り絞って話したのだろう。この「感謝」という言葉は今まで祖母を助けるために一生懸命でいてくださったお医者様、そして家族への思いであることはもちろん。しかし、それだけではないと私は思う。

この作文を通して、私は初めて「後期高齢者医療制度」というものがあることを知った。私の祖母は肺癌、乳癌、リンパ癌、腎不全、糖尿病とたくさんの病気を持っていた。これだけたくさんの病気を持っていたため、抗癌剤がどれでも使えるわけではなかった。腎不全と糖尿病に負担がかからなく、数値が上がらないような抗癌剤をお医者様が選んでくださったが、それには高額のお金がかかった。しかし、後期高齢者制度のおかげで、負担金がとても安くすんだ。ある時期の診療費は、百五十七万七千八百八十円だったが負担金は十五万百二十五円ととても少なかった。私は負担金の少なさと、税金で支払われるお金の量にとてもおどろいた。祖母はこの制度に対して、「本当にありがたいねぇ。」と感謝しつつも、自分一人のためにこんなにも税金を使っていることに申し訳なさを感じていた。残念ながら祖母は昨年、亡くなってしまったがこの制度のおかげで、たくさんの病気と闘いながらも生きる希望を持てたと私は思う。

私は今まで「税」ということに対して何の興味も持っていなかった。父と母は毎月、納税通知書がくるたびに「あー、今月も高い税金を払わなきゃ。」と大変そうにしていたのでマイナスなイメージの方が強かった。しかし今回の作文を通してどれだけ私達の生活が税から助けられているのかがよく分かった。祖母のように税のおかげで生きる希望が持てた人や命が救われた人など世の中にはたくさんいるであろう。

では、税への思いや考え方が変わっただけで今の私たちに何ができるだろう。私達子どもが税を払うというのは、おそらく買い物をした時だけだろう。だから私達は、あたり前なことがあたり前に暮らせる生活に感謝する心を持つことが大切だと思う。学校に入学すれば教科書がもらえる、それを使って毎日勉強できる、将来の夢ができる、進級すればまた新しい教科書が手元にくる、病院に行けば薬を無料でもらえる・・・。私達が感謝の心を持っただけで世の中が変わるわけでもないし、消費税が下がるわけでもない。こう考えると感謝の気持ちなんか持つ必要がないと感じるかもしれない。しかし、このような気持ちを持つことで周りの見方や視点が変わってくると私は思う。だから私は、祖母の言葉を忘れずに日々過ごしていきたい。